

予算決算特別委員会審査報告書

1 審査期日および場所

令和8年3月12日（木）、13日（金） 全員協議会室

2 出席委員

松田泰典委員長 外 34 名

3 付議事件審査の概要

本委員会は、付議事件である「一般会計、特別会計および事業会計の予算に係る議案に関する事」、「県財政の運営上および県政上の重要な案件」について審査を行った。その審査の過程において、各委員より論及のあった主な内容は、次のとおりである。

（1）北陸新幹線敦賀以西ルートについて

与党整備委員会にはどのような姿勢で臨むのかと知事にただしたところ、「県としては、小浜市附近を通らないルートは同意できないこと、調査等が積み重ねられてきた小浜京都ルートが全線開業の一番の近道であり、他のルート案とは同列にはないことを強く主張する。私としては、先人が積み重ねてきた思いを何とか実現させたい。県議会の皆様の経験や知恵を借り、全力で取り組みたい」との答弁があった。

（2）原子力政策について

日本原燃の設工認説明が終了した段階で、県として乾式貯蔵施設の事前了解については速やかに判断するのかとただしたところ、「昨年9月議会に六ヶ所再処理工場にかかる設工認の説明が終了した段階で判断していくと申し上げた。設工認の説明終了時期は明らかになっていない。県としては、県議会での様々な議論を踏まえるとともに、立地町の意見を速やかに伺い、適切に対応していく」との答弁があった。

（3）国際情勢を踏まえた福井経済への影響について

イラン関連の国際情勢により資材高や物価高が予見される中、本県の企業をどう守り、本県の産業をどう強化していくのかと知事にただしたところ、「まずは、当面の運転資金を確保できる環境を整えた上で、物価高にも負けない強い経営基盤をつくるための販路開拓や商品開発などの取組みを応援していきたいと考えている。また、省力化や生産性を高めるための設備投資を後押ししていきたいと考えている。今後も企業経営者の声に耳を傾けるとともに、国において検討されている支援策もあわせて、必要な対策をできるだけ早く実行しながら、県の支援策が隔々にまで行き渡るよう、情報発信にも力を入れていく」との答弁があった。

また、原油価格高騰により、福井アリーナの事業費がさらに膨らむ可能性がある。整備費の不足分について、県の負担がさらに増えることはないのかと知事にただしたところ、「経済界が示した事業計画案では、竣工までの物価上昇を加味して整備費を150億円としており、この範囲内で整備されるものと理解している。なお、直近の物価上昇率を見ても、想定内で収まるものと聞いている。福井アリーナは、福井商工会議所の完全子会社である整備会社が責任をもって整備するものであり、アリーナ整備に対する追加的な財政負担は想定していない」との答弁があった。

（4）知事の政治姿勢について

新たに就任した知事の政治姿勢に関しては、「知事には県政刷新を期待する県民が多く、1日も早く石田カラーを打ち出していきたい」、「人事刷新や外国人政策への発言について、政治家として決断すべきことは決断し、訂正すべきことは訂正すべきである」、「議会とともに県政を前に進めていくため、議会が求める県政刷新を決断すべきである」、「職員へのヒアリングを行い、得られた生の声を大切に受け止めて、副知事の処遇を決断していただきたい」、「知事に投票した県民は、しがらみにとらわれない県政運営、問題があれば処分できるという強い石田知事を求めている」など、幅広い観点から多くの委員より意見が示された。

この中でも、「日本は単一民族国家」、「移民政策に反対」などの発言の真意についてただしたところ、「単一民族国家の発言は、海外の国家と比較して、日本は民族や言語が比較的まとまった形で成熟してきたとの認識のもと発言した。また、移民政策の発言は無秩序、無計画な受入れには懸念があるとの考えからである。いずれの発言とも言葉足らずで説明不足なところもあり、軽率な発言であったと考えている。県民に対して深くおわび申し上げたい」との答弁があった。

これを受けて、委員からは、「政治家の発言はすべて公約であり、軽率な発言であったでは済まされない。重く受け止めていただきたい」との見解が示された。

さらに、委員から、今後、どのような考え方に基づいて人事や組織体制の見直し、刷新を進めていくのかと代表質問でただしたのに対して、知事は今後、制度面と人事面の双方から改革を進め、県民の信頼回復のため強い決意で取り組むと答弁したが、さらに前向きな答弁をいただきたいとただしたところ、「今回の事案は、個々の幹部だけの責任ではなく、組織全体の課題だと認識している。山積している県政の重要課題を前に進めていくためには、関係者が一丸となり、スピード感を持って対応していくことが不可欠である。副知事交代による影響は非常に大きい。意見は真摯に受け止めるが、しばらくお時間をいただきたい」との答弁があった。

この答弁を受けて、さらに知事のスケジュール感をただしたところ、同様の答弁が繰り返されたことを踏まえて、委員から理事会開催の請求があった。理事会における協議の結果、委員会再開後、委員長から知事に対して、「従前と同様の答弁が繰り返されるのは議会として求める説明責任に答えていない。特に議長からの申入れが行われたにもかかわらず、知事が明確かつ具体的に答弁しないことは極めて遺憾である」と指摘した上で、今後の質疑には誠実かつ明確に答弁するよう申し渡した。

このような状況の下、委員から、「前知事と中村副知事は表裏一体の関係である」、「知事は副知事に依存している限り、石田カラーは打ち出せない。自らがらみを断って新体制で進んでいくことが、県庁が変わったと思われる第一歩である」と指摘した上で、改めて中村副知事の処遇に関して知事にただしたところ、「県政の信頼回復や当面の重要課題の対応など、県政運営の安定を確保することが極めて重要であると考えており、副知事という県政の重要ポストの交代は、県政運営に空白や混乱を生じさせないように、責任をもって進める必要がある。しかしながら、議会の思いを踏まえて、副知事の去就については遅くとも6月議会までには判断する考えである」との答弁がなされた。

これを受けて、委員からは、「できるだけ早く4月1日から、遅くとも5月の臨時議会までには新しい体制をスタートさせるのが望ましい」とした上で、「議会と知事は県民益を守るために同じ方向を向いている。議会も職員も知事をしっかりと支えるので、一緒にやっていきたい」との見解が示された。

このほか、今議会の自己評価と次の6月議会への決意や覚悟についてただしたところ、「初めての議会で全力を尽くしたが、私自身の言葉が伝わってこないといった声をいただいた。いずれも県民のための指摘と受け止め、今後の県政運営に生かす。6月議会に向けては、「躍動する福井」実現へ施策を具体化するとともに、「徹底した県民目線」で様々な立場の県民から現状や意見を伺い、県政に対する自らの思いを今以上に自分の言葉で語り、議会で有意義な議論が交わされるようにしたい」との答弁があった。

このほか、ハラスメントのない組織への刷新、県内高等教育の授業料支援、県都活性化、嶺南地域の医療体制の強化、嶺北地方の海岸道路整備、今後の教育行政など広範多岐にわたり、理事者の見解と対応をただした。

以上のとおり、中間報告する。

令和8年3月18日

福井県議会議長 小堀 友廣 様

予算決算特別委員会委員長 松田 泰典